

授業科目	運動療法学 I				
担当者	榑 千磨 (実務経験者)				
実務経験者の概要	当該科目の実務経験者は、病院・介護保険施設等における臨床経験を積んでおり、実習指導の経験もあり、本科目においてもそれらの知見・経験を基に授業を進める予定。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

理学療法における運動療法の位置づけと基本的概念を学ぶ。  
解剖学・運動学・生理学などの基礎科目に立脚した学びを通して、運動療法を理解する。

## ■ 到達目標

疾患・症状に対応する各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解出来る。  
各種運動療法を解剖・生理・運動学に基づいて理解し、論理的に解説できる。  
関節拘縮の様々な因子について理解し、それらに対する関節可動域運動を説明することができる。  
筋力調節・増強に関わる因子について理解し、整理して論理的に解説する事が出来る。  
筋力増強運動の原則について理解し、適切な筋力増強運動について思考することが出来る。

## ■ 授業計画

- 第1回 運動療法の概念：定義や目的、対象疾患、方法、EBM
- 第2回 関節可動域障害に対する運動療法：関節の構造と運動
- 第3回 関節可動域障害に対する運動療法：関節拘縮・関節可動域運動
- 第4回 関節可動域障害に対する運動療法：モビライゼーション、ストレッチング
- 第5回 筋力低下に対する運動療法：筋の構造・収縮様式
- 第6回 筋力低下に対する運動療法：筋張力の規定因子、筋力増強の原則
- 第7回 筋力低下に対する運動療法：筋力増強の効果、エネルギー機構
- 第8回 持久力増強運動（筋持久力、全身持久力）
- 第9回 運動と呼吸・循環・代謝
- 第10回 協調性障害に対する運動療法：運動の協調性 / バランス障害
- 第11回 運動学習を目的とした運動療法
- 第12回 基本動作練習、歩行練習
- 第13回 痛みに対する運動療法、治療体操、各種の治療手技
- 第14回 組織の病態生理と修復
- 第15回 その他（全身調整運動、筋再教育、感覚・知覚再教育）

## ■ 評価方法

小テスト：70% レポート：30% 無断欠席－8点 遅刻－4点 受講中の注意指導－2点  
小テスト時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

各学生は授業後十分に復習を行うようにしてください。2回目授業以降、小テストで理解度の確認を行ってまいります。

## ■ 教科書

--

## ■ 参考図書

## ■ 留意事項

基本的に座学ですが、随時実技も織り交ぜて授業を進めていきます。

## ■ 講義受講にあたって

本科目で運動療法の基本的な知識・技術を学んでもらい、「運動療法学Ⅱ」でさらに発展的に実践してもらう形になります。